

年金払定期付積立型変額保険

LIFE PRODUCE
(06)

ライフ プロデュース (06)

【引受保険会社】



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1 17 3

月次運用レポート

2009年11月

【利用する投資信託の委託会社】

アライアンス・バーンスタイン株式会社


ALLIANCEBERNSTEIN

アライアンス・バーンスタイン株式会社は、米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーを中核とするアライアンス・バーンスタイン*の日本拠点です。アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーは1971年の設立以来、資産運用会社として長年にわたる歴史を有し、世界各国の主要都市に業務展開を行い、個人投資家や富裕層、機関投資家向けに投資信託や年金運用等の投資サービスを提供しています。業界最大級のグローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、グロース株式、バリュー株式、債券、ブレンド戦略など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

*アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。

- ・ アクサ生命保険株式会社の「年金払定期付積立型変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
 - ・ 当資料は、アクサ生命保険株式会社の「年金払定期付積立型変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
 - ・ 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
 - ・ 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
 - ・ 商品内容の詳細については「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)(*)」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」をあわせてご覧ください。
 - ・ 当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。
- * 金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2009年11月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2009年11月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、下落しました。TOPIX(東証株価指数)は前月末比6.12%下落の839.94ポイントで終了しました。上旬は、円高懸念や新政権の政策に対する不透明感などから軟調な展開となりました。その後も、相次ぐ国内主要企業による増資計画の発表を受けて、需給悪化懸念から売り優勢での推移が続きました。下旬にかけては、ドバイショック(ドバイ政府系企業の資金繰り懸念)により、米ドル/円相場場で急速に円高が進行したことやアジア株安などを受けて、一段と下落しました。業種別(東証33業種)では、円高のメリットを受けた「電気・ガス業」(前月末比+3.37%)が最も上昇した一方、中間決算での業績悪化を受けて「石油・石炭製品」(同-17.87%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

外国株式市場は、概ね堅調に推移しました。米国株式市場は堅調に推移し、NYダウは前月末比+6.51%上昇の10,344.84ポイントで終了しました。上旬は、企業業績の回復期待などを受けて上昇しました。その後も、好調な企業業績やG20(20カ国・地域)財務相・中央銀行総裁会議において景気刺激策が継続されることが確認されると、米国の低金利政策が長期化するとの見通しが強まったことなどを背景に上昇しました。下旬にかけては、ドバイショックを受けて下落しました。欧州株式市場も、主要国の株式指数は米国とほぼ同様の動きとなり、市場別騰落率は、英FT100は前月末比+2.90%上昇、仏CAC40は同+2.01%上昇、独DAXは同+3.90%上昇となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、上旬に金利が上昇したものの、その後は低下しました。新発10年国債利回りは1.260%となりました(前月末は1.405%)。上旬は米金利の上昇や財政問題を背景とした国債増発による需給悪化懸念などから1.4%台半ばまで上昇しましたが、その後、国債入札を無難にこなしたことから債券に対する買い安心感が広がり、1.3%台に低下しました。中旬には、米金利の低下や株価が下落幅を広げたこと、政府のデフレ宣言などを受けて、1.2%台後半に低下しました。さらに、下旬にかけてはドバイショックの影響で円高、株安となったことを受けて、1.2%台半ばまで低下しました。日銀は、政策金利を据え置き、年0.1%を維持しました。無担保コール(翌日物)は0.1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

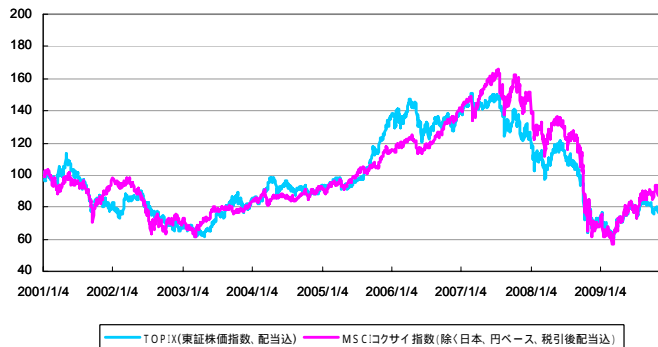
米国債券市場は、10%越えとなった米10月失業率などの軟調な経済指標などを背景に、中旬にバーナンキFRB(米連邦準備制度理事会)議長が政策金利は長期にわたって低水準に抑えられるとの認識を示したことなどから、債券が買われる展開となり、金利は低下しました。さらに、下旬にかけてはドバイショックを受けて低下し、米10年国債利回りは、月末には3.198%となりました(前月末は3.383%)。欧州債券市場は、中旬にかけて、まちまちな経済指標の発表を受けて、狭い範囲での動きとなりました。その後下旬にかけては、ドバイショックを受けて債券が買われる展開となり、独10年国債利回りは、月末には3.159%となりました(前月末は3.231%)。FRBは、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.0~0.25%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を据え置き、年1.0%を維持しました。

【外国為替市場】

外国為替市場は、ドバイショックを受けて避難先通貨として円を買う動きが強まり、円は米ドルやユーロに対して上昇しました。米ドル/円相場は、FRBが近い将来金融引き締め策に転じるとの見方が後退したことや、日本の金融当局が一段の円高を容認するとの観測が高まったことなどから円が買われる展開となりました。月末にかけては、ドバイショックを受けて円高が一段と進行し、円は対ドルで前月末比4円63銭(+5.06%)円高ドル安の1ドル=86円81銭となりました。ユーロ/円相場は、月末にかけて、ドバイショックを受けて円高となり、円は対ユーロで前月末比5円39銭(+3.97%)円高ユーロ安の1ユーロ=130円21銭となりました。

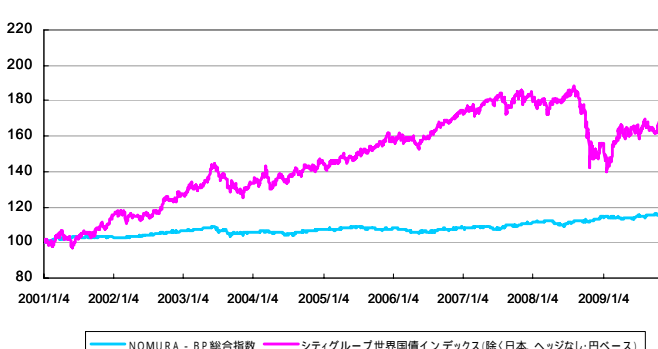
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

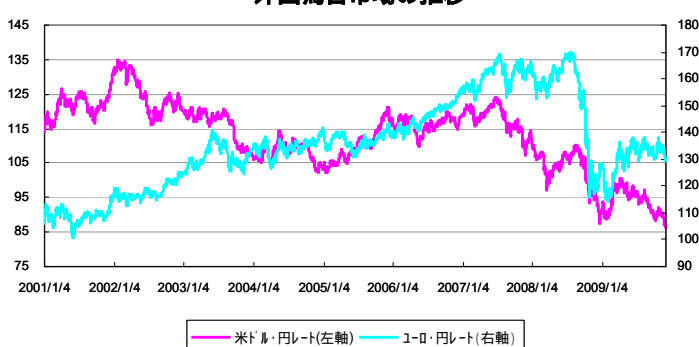


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所:株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2009年11月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	基本資産 配分比率	利用する投資信託		
		投資信託名	運用方針	委託会社
ライフ プロデュース30	世界 株式 30%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ グローバル・バランス (保守型)	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式および投資適格債(BBB格以上)に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目指します。株式の実質組み入れ比率は純資産の30%程度を基本とし、一定の規律に従いリバランス ¹⁾ を行います。 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	アライアンス・ バーンスタイン 株式会社
	世界 債券 70%			
ライフ プロデュース50	世界 株式 50%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ グローバル・バランス (中立型)	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式および投資適格債(BBB格以上)に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目指します。株式の実質組み入れ比率は純資産の50%程度を基本とし、一定の規律に従いリバランス ¹⁾ を行います。 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	
	世界 債券 50%			
ライフ プロデュース70	世界 株式 70%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ グローバル・バランス (積極型)	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式および投資適格債(BBB格以上)に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目指します。株式の実質組み入れ比率は純資産の70%程度を基本とし、一定の規律に従いリバランス ¹⁾ を行います。 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	
	世界 債券 30%			
ライフ プロデュース日本株式	日本 株式 100%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ ジャパン・スタイル・ブレンド・ ファンド - 1	マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本の株式を投資対象に信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。バリューストック(割安株)およびグロース株(成長株)への投資配分は50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従いリバランス ¹⁾ を行います。	
ライフ プロデュース世界株式	世界 株式 100%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ グローバル・グロース・ オポチュニティーズ - 3	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国(日本を含む)の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「産業セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	
ライフ プロデュース世界債券	世界 債券 100%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ グローバル・ボンド・ ファンド - 1	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国の投資適格債(BBB格以上)を投資対象に分散投資と投資対象証券の相対的投資価値分析を基本として、信託財産の成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。 外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	

特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。
特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

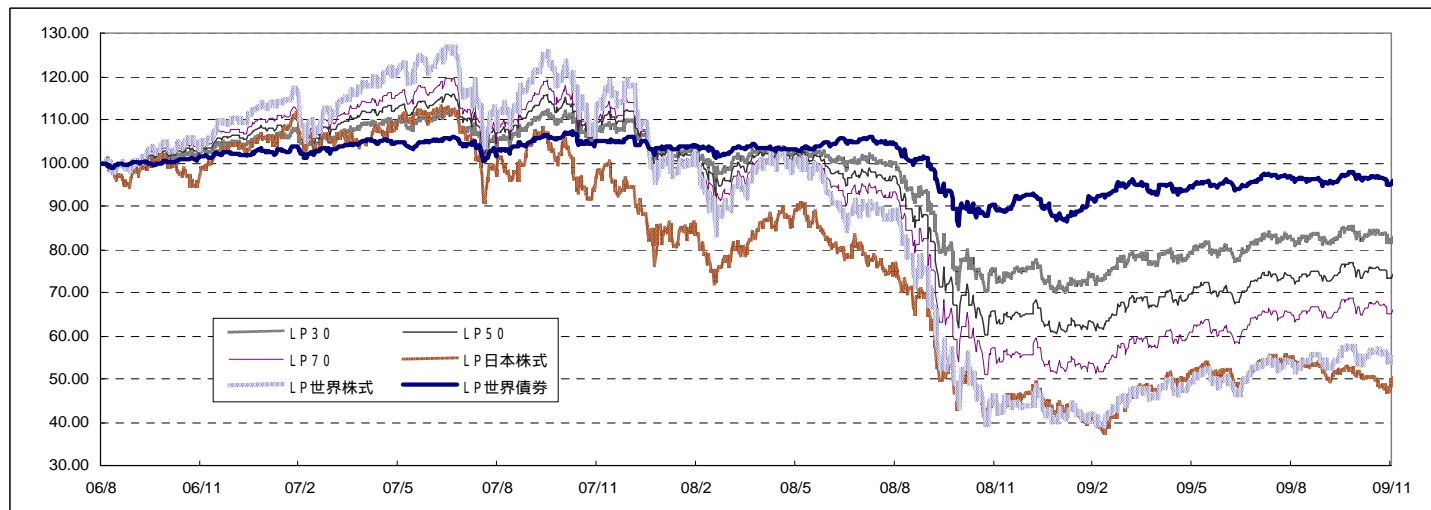
年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2009年11月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2009年11月 末日現在]

特別勘定のユニットプライスの推移

特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



ライフプロデュース30			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2009年11月末	81.97	過去1ヵ月	2.05
2009年10月末	83.69	過去3ヵ月	0.17
2009年9月末	82.37	過去6ヵ月	3.50
2009年8月末	82.11	過去1年	9.10
2009年7月末	82.20	過去3年	20.14
2009年6月末	80.67	設定来	18.02

ライフプロデュース50			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2009年11月末	73.49	過去1ヵ月	2.24
2009年10月末	75.17	過去3ヵ月	0.19
2009年9月末	73.95	過去6ヵ月	5.29
2009年8月末	73.35	過去1年	11.73
2009年7月末	73.39	過去3年	28.94
2009年6月末	71.25	設定来	26.51

ライフプロデュース70			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2009年11月末	65.12	過去1ヵ月	2.40
2009年10月末	66.72	過去3ヵ月	0.59
2009年9月末	65.57	過去6ヵ月	7.14
2009年8月末	64.74	過去1年	14.00
2009年7月末	64.74	過去3年	37.44
2009年6月末	62.17	設定来	34.87

ライフプロデュース日本株式			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2009年11月末	48.70	過去1ヵ月	5.40
2009年10月末	51.48	過去3ヵ月	11.06
2009年9月末	51.88	過去6ヵ月	4.84
2009年8月末	54.76	過去1年	7.73
2009年7月末	53.80	過去3年	50.74
2009年6月末	51.93	設定来	51.29

ライフプロデュース世界株式			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2009年11月末	53.93	過去1ヵ月	2.63
2009年10月末	55.38	過去3ヵ月	1.06
2009年9月末	54.40	過去6ヵ月	9.52
2009年8月末	53.36	過去1年	17.30
2009年7月末	53.34	過去3年	48.67
2009年6月末	50.47	設定来	46.07

ライフプロデュース世界債券			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2009年11月末	95.38	過去1ヵ月	1.77
2009年10月末	97.10	過去3ヵ月	0.73
2009年9月末	95.66	過去6ヵ月	0.97
2009年8月末	96.08	過去1年	5.67
2009年7月末	96.20	過去3年	6.03
2009年6月末	96.01	設定来	4.61

特別勘定のユニットプライスは、2006年8月30日のプライスを100.00として計算しています。

騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。

各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページにて各営業日にご確認いただくことができます。

特別勘定資産の内訳

項目	ライフプロデュース30		ライフプロデュース50		ライフプロデュース70	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・コールローン	1,178	0.5	9,483	0.6	5,866	0.7
その他有価証券	221,657	99.5	1,488,044	99.4	815,204	99.3
合計	222,835	100.0	1,497,528	100.0	821,071	100.0

項目	ライフプロデュース日本株式		ライフプロデュース世界株式		ライフプロデュース世界債券	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・コールローン	3,045	0.9	6,916	0.7	2,926	0.6
その他有価証券	350,695	99.1	1,043,874	99.3	518,388	99.4
合計	353,740	100.0	1,050,791	100.0	521,315	100.0

各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

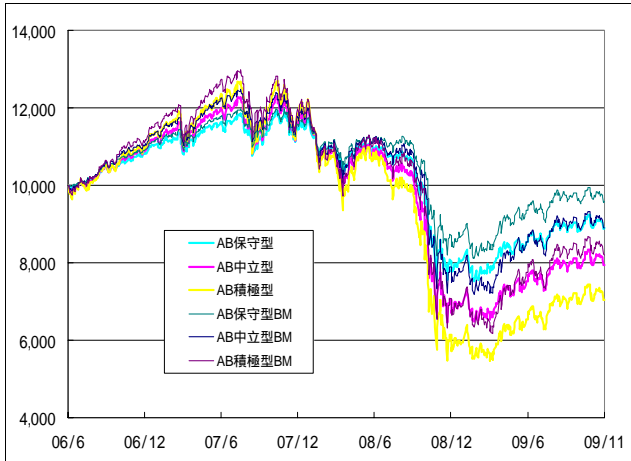
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2009年11月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 ライフプロデュース30・50・70 [2009年11月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2006年6月5日)を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
AB保守型	2.07%	0.12%	4.07%	10.09%	17.88%	11.08%
BM	2.52%	1.94%	2.31%	9.61%	12.25%	4.34%
差	0.45%	1.82%	1.77%	0.48%	5.63%	6.74%
AB中立的型	2.27%	0.20%	5.84%	12.54%	27.14%	20.46%
BM	2.78%	1.81%	4.23%	13.01%	19.28%	10.96%
差	0.51%	2.01%	1.62%	0.47%	7.86%	9.50%
AB積極型	2.47%	0.51%	7.58%	14.58%	35.98%	29.57%
BM	3.05%	1.72%	6.10%	16.16%	26.48%	17.95%
差	0.58%	2.23%	1.48%	1.59%	9.50%	11.62%

当投資信託の資産配分比率

	基本資産配分	AB保守型	基本資産配分	AB中立的型	基本資産配分	AB積極型
世界株式Mファンド*	30.00%	30.34%	50.00%	50.45%	70.00%	70.46%
世界債券Mファンド**	70.00%	69.93%	50.00%	49.82%	30.00%	29.82%
短期金融資産等	0.00%	-0.28%	0.00%	-0.27%	0.00%	-0.29%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

* 世界株式Mファンド: アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券

** 世界債券Mファンド: アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・マザーファンド受益証券

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は、AB保守型が前月末比 2.07%、AB中立的型が同 2.27%、AB積極型が同 2.47%となりました。一方、ベンチマークの騰落率は、AB保守型が前月末比 2.52%、AB中立的型が同 2.78%、AB積極型が同 3.05%となりました。

ベンチマークとの比較では、世界債券Mファンドにおける国債のイールドカーブ戦略のほか、世界株式Mファンドにおける金融サービス・セクターをアンダーウェイトとしたセクター配分や、消費関連セクターおよびインフラストラクチャー・セクターにおける銘柄選択などがプラス要因となりました。運用にあたっては、世界株式Mファンドおよび世界債券Mファンドの組入れが基本資産配分程度となるように一定の規律に従いリバランスを行います。当月は各投資信託とともに概ね基本資産配分程度のアロケーションを維持しました。

今後も引き続き、世界株式Mファンドおよび世界債券Mファンドへの投資を通じて、実質的に世界の株式と債券へ分散投資を行い、信託財産の長期的な成長を図ります。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

利用する投資信託について

【投資信託名】 LP30 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス(保守型)
LP50 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス(中立的型)
LP70 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス(積極型)

【委託会社】 アライアンス・バーンスタイン株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式および投資適格債(BBB格以上)に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目指します。株式の実質組み入れ比率は純資産の30%・50%・70%程度を基本とし、一定の規律に従いリバランス¹⁾を行います。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

当投資信託は、主として、アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券、アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・マザーファンド受益証券に投資します。

- * LP: 特別勘定 ライフプロデュース
- * AB: アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2006年6月5日)を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したもとして計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、合成ベンチマークを指します。合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	AB保守型	AB中立的型	AB積極型
MSCIワールド・インデックス ²⁾ (税引後配当金込/円ベース)	30.00%	50.00%	70.00%
シティグループ世界国債インデックス (円ベース) ³⁾	70.00%	50.00%	30.00%

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

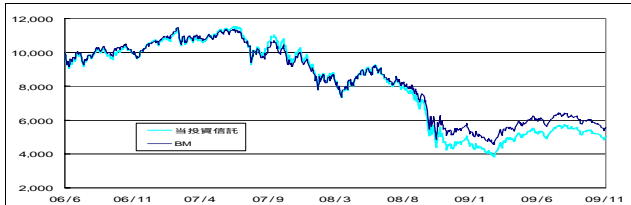
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2009年11月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- ・当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 ライフプロデュース日本株式 [2009年11月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2006年6月5日)を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	5.44%	11.04%	4.39%	8.81%	50.17%	49.73%
BM	6.11%	12.38%	5.83%	2.66%	44.82%	44.26%
差	0.68%	1.34%	1.43%	6.15%	5.36%	5.47%

当投資信託の詳細情報

資産配分比率

	基本資産配分	投資信託
バリュース株Mファンド*	50.00%	50.25%
グロース株Mファンド**	50.00%	50.33%
短期金融資産等	0.00%	-0.58%
合計	100.00%	100.00%

業種別構成比率

業種	投資信託
1 電気機器	15.93%
2 輸送用機器	11.94%
3 卸売業	7.88%
4 化学	7.47%
5 銀行業	6.05%
6 情報・通信業	5.84%
7 機械	5.31%
8 電気・ガス業	4.46%
9 その他の業種	33.65%
10 現金等	1.46%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	業種	投資信託
1 トヨタ自動車	輸送用機器	4.19%
2 日本電信電話	情報・通信業	3.84%
3 キヤノン	電気機器	3.50%
4 三菱商事	卸売業	3.23%
5 東日本旅客鉄道	陸運業	3.22%
6 三井物産	卸売業	3.10%
7 本田技研工業	輸送用機器	3.02%
8 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.02%
9 東芝	電気機器	2.42%
10 東京電力	電気・ガス業	2.29%
合計		31.82%
組入銘柄数		85銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比 5.44%となりました。一方、ベンチマークであるTOPIX(東証株価指数 配当込)の騰落率は、前月末比 6.11%となりました。(以下、バリュース株Mファンドは委託会社独自のセクター別、グロース株MファンドはGICSセクター別で記載。)
ベンチマークとの比較では、バリュース株Mファンドでは、セクター配分、銘柄選択共にプラスに寄与しました。セクター配分では、通信のオーバーウェイトなどがプラス寄与となりました。銘柄選択では、資本財や素材セクターなどにおける選択がプラス寄与となりました。グロース株Mファンドは、セクター配分はマイナス要因となりましたが、銘柄選択はプラス寄与となりました。セクター配分では、公益のアンダーウェイトなどがマイナス要因となりました。銘柄選択では、資本財・サービスセクターにおける選択などがプラス寄与となりました。各マザーファンドに対する基本資産配分を概ね維持しました。
引き続き投資スタイルの分散を行い、バリュース株Mファンドについては、企業のファンダメンタルズ分析に基づく個別銘柄選択を付加価値の源泉とした割安銘柄のボトムアップ投資、グロース株Mファンドについては、綿密な個別企業の調査に基づいて、業績および潜在成長力が市場で過小評価されていると考える成長銘柄を中心に投資し、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

利用する投資信託について

【投資信託名】 通格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ジャパン・スタイル・ブレンド・ファンド - 1
【委託会社】 アライアンス・バーンスタイン株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本の株式を投資対象に信託財産の長期的な成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。バリュース株(割安株)及びグロース株(成長株)への投資配分は、50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従いリバランス¹⁾を行います。

当投資信託は、主として、
バーンスタイン・日本ストラテジック・バリュース株・マザーファンド受益証券、
アライアンス・日本大型成長株・マザーファンド受益証券 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2006年6月5日)を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、TOPIX(東証株価指数 配当込)⁴⁾です。

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

市場別構成比率

市場	投資信託
東京証券取引所第一部	95.95%
大阪証券取引所第一部	2.59%
現金等	1.46%
合計	100.00%

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

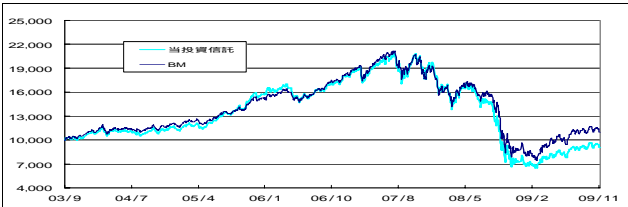
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2009年11月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 ライフプロデュース世界株式 [2009年11月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2003年9月30日)を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	2.68%	0.99%	10.11%	17.70%	47.65%	9.42%
BM	3.46%	1.64%	8.82%	20.39%	37.26%	9.68%
差	0.78%	2.63%	1.29%	2.69%	10.39%	19.10%

マザーファンド受益証券の詳細情報 国/地域別構成比率

国名	マザーファンド
1 アメリカ	47.15%
2 イギリス	10.94%
3 スイス	5.39%
4 日本	4.10%
5 ドイツ	3.29%
6 中国	3.28%
7 オーストラリア	2.97%
8 アイルランド	2.48%
9 その他の国/地域	16.61%
10 現金等	3.79%
合計	100.00%

利用する投資信託について

【投資信託名】 通格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース
・オポチュニティーズ - 3
【委託会社】 アライアンス・バーンスタイン株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国(日本を含む)の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「産業セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目的に積極的な運用を行います。外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

当投資信託は、主としてアライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2003年9月30日)を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCIワールド・インデックス²(税引後配当金込/円ベース)です。

比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

セクター別構成比率

セクター	マザーファンド
1 情報技術	18.62%
2 金融	17.63%
3 エネルギー	11.15%
4 資本財・サービス	11.10%
5 ヘルスケア	10.81%
6 一般消費財・サービス	10.00%
7 生活必需品	8.44%
8 素材	6.15%
9 その他のセクター	2.32%
10 現金等	3.79%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	業態	マザーファンド
1 ゴールドマン・サックス・グループ	アメリカ	金融	証券・投資銀行	1.96%
2 クレディ・スイス・グループ	スイス	金融	総合金融	1.81%
3 JPモルガン・チェース	アメリカ	金融	総合金融	1.65%
4 中国工商銀行	中国	金融	商業銀行	1.52%
5 フランクリン・リソース	アメリカ	金融	投資顧問	1.46%
6 エクソン・モービル	アメリカ	エネルギー	石油	1.44%
7 グーグル	アメリカ	情報技術	インターネット	1.42%
8 マイクロソフト	アメリカ	情報技術	コンピューターソフト	1.39%
9 BGグループ	イギリス	エネルギー	ガス	1.34%
10 アップル	アメリカ	情報技術	パソコン	1.31%
合計				15.31%
組入銘柄数				142銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月比 2.68%となりました。一方、ベンチマークであるMSCIワールド・インデックス(税引後配当金込/円ベース)の騰落率は前月比 3.46%となりました。(以下、委託会社独自のセクター別で記載。)
ベンチマークとの比較では、セクター配分では、金融サービス・セクターをアンダーウェイトとしていたことなどがプラスに寄りました。銘柄選択では、消費関連セクターやインフラストラクチャー・セクターを中心に、全てのセクターでの選択がプラスにはたきました。
今後も、自社アナリストによる徹底した企業分析を通じて、成長が見込まれ、かつ株価水準が妥当な優良銘柄を選別する方針です。セクター別では、金融サービス・セクターでは、現在の良好な債券市場環境の恩恵を受けるとされる銘柄や、改善しつつある株式市場の恩恵を受けるとされる銘柄を中心に組入れています。エネルギー・天然資源セクターでは、銅や鉄鉱石など需給バランスの取れたコモディティに関連する銘柄に焦点を当てています。情報・通信テクノロジー・セクターでは、当月はヘルスケア・セクターへ資金をシフトしたものの、当セクターが景気回復局面を牽引するとの見方に変更はありません。消費関連セクターでは、市場シェアを拡大している企業と長期にわたる勝者である企業を中心にバランスの取れたポートフォリオを維持しています。インフラストラクチャー・セクターでは、機械、商社、自動車、航空宇宙・防衛を最も高い組入比率とする一方、公益事業や建設・土木を低めに組入れています。ヘルスケア・セクターでは、当月は米国における医療改革法案の成立を視野に入れ、当セクターの組入比率を引き上げました。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

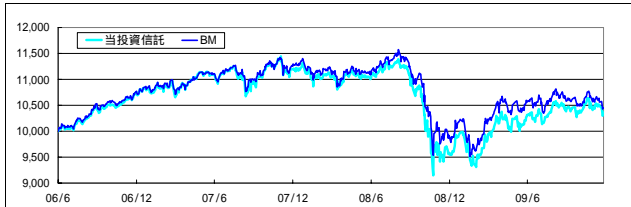
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2009年11月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 ライフプロデュース世界債券 [2009年11月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2006年6月5日)を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	1.76%	0.57%	1.50%	6.70%	3.20%	3.63%
BM	2.15%	2.20%	0.65%	4.11%	2.36%	4.52%
差	0.39%	1.64%	2.15%	2.59%	0.85%	0.89%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2006年6月5日)を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、シティグループ世界国債インデックス(円ベース)¹⁾です。

比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

マザーファンド受益証券の詳細情報 国/地域別構成比率

国名	マザーファンド
1 ドイツ	23.70%
2 日本	22.23%
3 アメリカ	16.88%
4 イギリス	9.32%
5 フランス	5.87%
6 カナダ	4.18%
7 スウェーデン	3.18%
8 オーストラリア	1.42%
9 その他の国/地域	8.59%
10 現金等	4.63%
合計	100.00%

格付別構成比率

格付	マザーファンド
AAA	57.86%
AA	26.53%
A	6.69%
BBB	4.29%
BB以下	0.00%
現金等	4.63%
合計	100.00%

格付基準:

ムーディーズ社またはスタンダード・アンド・プアーズ(S&P)社のうち、

いずれか高いほうを採用しています。

債券種別資産構成比率

債券種別	マザーファンド
1 国債・政府機関債等	77.30%
2 社債	18.07%
3 現金等	4.63%
合計	100.00%

ポートフォリオの状況

	マザーファンド
平均複利利回り	2.62%
平均クーポン	3.75%
平均残存期間	7.38
実効デュレーション	6.07

「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

「実効デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ、金利の変化に対する債券価格の感応度を示します。

組入上位10銘柄

銘柄	国名	クーポン	償還日	格付		マザーファンド
				ムーディーズ	S&P	
1 ドイツ国債	ドイツ	3.750%	2017年1月4日	Aaa	AAA	5.53%
2 ドイツ国債	ドイツ	4.250%	2017年7月4日	Aaa	AAA	4.49%
3 日本国債	日本	1.500%	2015年9月20日	Aa2	AA	4.18%
4 ドイツ国債	ドイツ	4.000%	2016年7月4日	Aaa	AAA	3.84%
5 日本国債	日本	1.300%	2014年3月20日	Aa2	AA	3.69%
6 イギリス国債	イギリス	5.000%	2018年3月7日	Aaa	AAA	3.69%
7 カナダ国債	カナダ	3.750%	2019年6月1日	Aaa	AAA	3.59%
8 イギリス国債	イギリス	8.000%	2015年12月7日	Aaa	AAA	3.27%
9 フランス国債	フランス	3.250%	2016年4月25日	Aaa	AAA	2.80%
10 日本国債	日本	1.500%	2017年12月20日	Aa2	AA	2.62%
合計						37.69%
組入銘柄数						136銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比 1.76%、一方、ベンチマークであるシティグループ世界国債インデックス(円ベース)の騰落率は前月末比 2.15%となりました。ベンチマークとの比較では、マザーファンドにおいては、米国やユーロ圏の国債のイールドカーブ戦略のほか、米国を低めの比率とした通貨配分などが主なプラス要因となりました。マザーファンドのポートフォリオでは、社債について、金融関連やエネルギー関連銘柄などを買い付けました。世界経済は、堅調なアジア経済が先進国経済にも好影響を及ぼし、今後、景気回復は更に鮮明になると見えています。主要国の国債については、欧州などの投資妙味が高いと判断している一方、日本などについて慎重な見方をしています。投資適格社債については、昨年の金融危機の際に大幅に拡大した国債との利回り格差(スプレッド)は足元では縮小したものの、依然として高い水準にあることに加え、今後期待される景気回復の影響などから、相対的な投資妙味は高いと判断しています。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

年金払定期付積立型変額保険

用語説明

- *1 「リバランス」とは、当初決定した資産配分比率に調整することをいいます。
- *2 「MSCIワールド・インデックス」とは、MSCI Inc.が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。
MSCIワールド・インデックスに関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
MSCIワールド・インデックス(税引後配当金込/円ベース)は、MSCIワールド・インデックス(米ドルベース)をもとに、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて委託会社が円ベースに換算したものです。
- *3 「シティグループ世界国債インデックス(円ベース)」とは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクが算出・公表する指数で、1984年12月末日を100として世界主要国の国債の総合投資収益を各市場の時価総額で加重平均し指数化したものです。
シティグループ世界国債インデックス(円ベース)に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はシティグループ・グローバル・マーケット・インクに帰属します。
- *4 「TOPIX(東証株価指数 配当込)」とは、東京証券取引所第一部に上場されている普通株式全銘柄の浮動株調整後の時価総額を指数化し、配当収益を考慮したインデックスであり、市場全体の動向を反映するものです。TOPIX(東証株価指数)は、株式会社東京証券取引所(以下「東証証券取引所」)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東証証券取引所が有しています。東証証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

年金払定期付積立型変額保険のリスク及び諸費用について

【投資リスクについて】

この保険は積立金額、払いもどし金額および満期保険金額などが特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの変額保険です。特別勘定資産の運用は、主として国内外の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を利用して運用され、株式および公社債の価格変動と為替変動などに伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、このリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額や満期保険金額などが払込保険料総額を下回る場合があります。特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待通りでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

【諸費用について】

お客様にご負担いただく費用は、危険保険料、各保険契約管理費、および運用関係費の合計額となります。

<第1回の年金の支払事由発生前にかかる費用>

項目	費用	備考
危険保険料	毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額に、危険保険料率を乗じた金額	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。
保険契約管理費 (保険料比例部分)	保険料(任意一時払保険料を除く)に対し、 3.00%	各保険料を特別勘定に繰り入れる際、当該保険料から控除して積立金に充当します。
保険契約管理費 (定額部分)	毎月 250円(固定費)	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。
保険契約管理費 (危険保険金額比例部分)	毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額に対し、 0.01%/月	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。
保険契約管理費 (積立金額比例部分)	積立金額に対し、 年率1.00% (1.00%/365日を乗じた金額)	毎日、積立金から控除します。

危険保険料は、危険保険金額が積立金額の変動によって変動すること、また、危険保険料率が被保険者の年齢や性別によって異なることから具体的な数値を記載することができません。危険保険料率について詳しくは、「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。

毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額が1,000万円を超える場合、高額割引が適用され、その月の保険契約管理費(危険保険金額比例部分)がお安くなります。ただし、基本年金年額の減額や積立金額の増加などにより、危険保険金額が1,000万円以下となる場合には、高額割引は適用されなくなります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険のリスク及び諸費用について

< 積立金の移転や解約などにかかる費用 >

項目	時期	費用	備考
積立金移転費用	積立金の移転時	[書面による移転申込みの場合] 月1回目1,500円、 2回目以降は1回につき2,300円 ^(*)	毎回に移転について積立金から控除します。
		[インターネットによる移転申込みの場合] 月1回の積立金の移転は無料、 2回目からは1回につき800円 ^(*)	1ヵ月に2回以上積立金の移転を行なう場合、 2回目からの移転について積立金から控除します。
解約控除	解約時	積立金に対する解約控除額(積立金に解約控除率10%~1%を乗じた金額)と危険保険金に対する解約控除額(危険保険金に解約控除率0.50%~0.05%を乗じた金額)の合計額	解約日が契約日より起算して10年未満の場合には、 経過年数に応じて計算した金額を、 解約日の翌営業日の積立金額から控除します。
解約控除	積立金の一部引出時	積立金に対する解約控除額(積立金に解約控除率10%~1%を乗じた金額)	一部引出日が契約日より起算して10年未満の場合には、 経過年数に応じて計算した金額を、 一部引出請求金額から控除します。

(*) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行った回数

経過年数については1年未満は切り上げとなります。

無償引出限度額(解約日または一部引出日の前日の積立金額の10%相当額)と同額の積立金額までは上記の積立金に対する解約控除額の計算対象となりません。ただし、すでに積立金の一部引出が行なわれている場合はその合計額を無償引出限度額から差し引きます。

解約時の払戻し金の支払いに際しては、解約日の属する月に控除すべき危険保険料および保険契約関係費を払いもどし金額から差し引いてお支払いします。

基本年金額の減額、契約の型の変更、保険期間の短縮の際にも、危険保険金額の減額により、危険保険金額に対する解約控除が適用される場合があります。

将来、上記の内容が変更になることがあります。

運用関係の費用

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフプロデュース30 年率0.7770%程度 (税抜年率0.74%程度)	投資信託の純資産額に対して、 毎日積立金から控除します。
		ライフプロデュース50 年率0.8295%程度 (税抜年率0.79%程度)	
		ライフプロデュース70 年率0.8820%程度 (税抜年率0.84%程度)	
		ライフプロデュース日本株式 年率0.8610%程度 (税抜年率0.82%程度)	
		ライフプロデュース世界株式 年率0.8925%程度 (税抜年率0.85%程度)	
		ライフプロデュース世界債券 年率0.5460%程度 (税抜年率0.52%程度)	

運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。

信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、

これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。

また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。

これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

< 第1回の年金の支払事由発生以後にかかる費用 >

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の契約応当日	支払年金額の1%	年金支払開始日以後、 年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

年金管理費は、将来変更となる可能性があります。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>